

## 編 集 後 記

愛知県保険医協会発行の「明日の臨床」も発刊から20年以上経過し、わが国における邦語での医学雑誌としての実績をあげ、それなりの歴史を築いてきたものと自負している。本誌は二次資料として医中誌に登録されており、インターネット検索が可能であるとともに、国立国会図書館や全国医科大学図書館に所蔵されており相互利用で論文のコピー等が入手可能な学術雑誌である。しかしながら、愛知県保険医協会のホームページ（HP）から「明日の臨床」に関するコンテンツがほとんどない状況であり、お膝元のHPから検索できないことを編集員の一人として認識した。今後、著者の了解を得て発刊以降の「明日の臨床」のすべての論文を電子化し、協会のHPからPDF版で閲覧、ダウンロードできる環境を整えるべく、編集委員会、協会理事会の議を得て実現したい。雑誌の電子化によって閲覧可能となれば、今後さらに「明日の臨床」の学術雑誌としての意義が推進できるものと考えている。

さて、第22巻、2号は3編の総説と1編の臨床経験が掲載されている。総説では遠藤先生にはわが国における乳がん検診の最近の実態と動向、およびマンモグラフィーの重要性について、さすがに超専門家の視点から見事に解説頂いた。第2編は医療薬学の視点で生薬・漢方薬について生薬学の専門家である薬剤師の立場から盛りだくさんの内容を簡潔におまとめ頂いた。牧野先生のご講演は何時もながら時間がもっと欲しい印象で拝聴していたが、その内容が十分整理できる解説であった。第3編は性感染症の専門家として、泌尿器科医でなく産婦人科医の立場で解説頂いた。最近のわが国の性行動を反映して、従来の古典的性病学の知識では適切な対応が困難であり、特定の診療科の問題でないことを強調された本誌にふさわしいテーマであった。最後に、大学病院における血液内科紹介患者の1年間の医療連携の状況、その基礎病態の解析結果について報告された。血算、血液像は診療科に関係なく臨床検査の最も基本であり、その結果からいかに血液疾患を疑い、専門医との病診連携を図るかの重要性が組み取れる内容であった。以上、いずれも診療科を超えたテーマの内容であった。 [松本 美富士]

---

### 編 集 委 員 (50音順 \*印委員長)

池 山 淳	粥 川 裕 平	杉 藤 徹 志*
高 橋 英 世	松 本 美 富 士	山 本 武 司

---

明日の臨床

Vol.22 No. 2

2010年12月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

---

頒価 1,000円・発行部数 7,000部